

年別	植付面積	收穫量	金額	備考
大正十四年	七二、八八	二、六六三、一五	三〇、七六一、四六	
昭和元年	一〇八、一八	四、二二二、七七	二九、六二七、九六	
昭和二年	一一九、二三	四、二七二、五〇	四七、〇六九、八五	
昭和三年	一二三、六〇	五、〇三九、〇六	五七、三〇七、八四	
昭和四年	一四四、九五	四、五八八、九〇	九一、四六六、七六	早稲ノタメ減収

甘蔗栽培ハ水田耕作ニ亞ク主要ナル授産事業ニシテ其ノ收穫ハ相當額リタル代金ヲ得ルヲ以テ一般ニ植付栽培ヲ希望シ逐年其ノ面積ヲ擴張シ耕作方法ノ如キモ著シク改善セラレツツアリテ甲當平均收穫七萬四千斤最高十五萬斤ヲ生産セルモノアリ

年別	植付面積	收穫量	金額	備考
大正十四年	一二四、一〇	七、一四五、二五四	三〇、七六一、四六	
昭和元年	一一三、七一	六、八六一、八三七	二九、六二七、九六	
昭和二年	一九一、四二	一〇、九四六、四九一	四七、〇六九、八五	
昭和三年	一七九、三二	一三、二九六、一一一	五七、三〇七、八四	
昭和四年	一九一、六九	二一、一〇九、三〇〇	九一、四六六、七六	

水田作、甘蔗作ノ適地ヲ有セサルモノニ對シテハ蠶業ヲ指導獎勵シ之レカ成績ハ逐年生産ヲ増加シ副業トシテ最モ有利ナルモノト認め獎勵中ナルモ飼育法其ノ他ニ於テ遺憾ノ點アルヲ以テ本年中タイヤル族蕃人五名

蠶業

ヲ選ヒ殖産局附属養蠶所へ入所セシメ一ヶ月間講習ヲ爲サシム

年別	播立枚數	收穫量	金額	備考
大正十四年	六九九	一〇一、〇六四	三、三一四、三三	
昭和元年	八一三	一五二、四六八	五、一三六、六一	
昭和二年	一、〇二七	二〇一、七〇三	四、一八九、五六	米價下落ニテ金額減少
昭和三年	七七六	一七八、七五七	三、三三五、九九	米價暴落ノタメ飼育者減少
昭和四年	一、二九五	二四一、八七三	五、二六一、二八	

蓮草

蓮草ハ本島獨特ノ天産物ニシテ廳下蕃地六千尺内外ニ至ル迄點在自生スルヲ以テ之レニ相當栽培獎勵ヲ爲スニ於テハ廳下ノ物産タラシムルヲ得ヘシト認め昭和四年ヨリ五ヶ年間ノ豫定ヲ以テ獎勵區十四ヲ設ケ高山蕃人ニ對シ指導獎勵中ナリ

二 蕃地衛生事務

廳下蕃地ニハ醫療機關トシテ公醫診療所二、療養所二十六箇所アリ之等醫療機關ハ逐年蕃人ノ信賴ヲ受ケツツアリ之等ノ機關ニ配置セラレタル擔任者ハ蕃社受持巡查ト連絡ヲ保チ常ニ蕃社内ノ衛生状態ニ注意シ各種ノ會合ニ際シ通俗的ニ衛生講話ヲナシ指導スル所アリシカ漸次理解シテ往時ノ呪文祈禱ハ廢セラレ從來最羞恥トセル婦人病ノ如キモ診療ヲ乞フニ至レリ

年 別	公 署 診 療 所		療 養 所		療 養 人 員	同 上 延 人 員	備 考
	公 署 診 療 所	療 養 所	療 養 人 員	同 上 延 人 員			
大正十四年	二	二六	四四、三二七	一六三、四六三			
昭和元年	二	二六	四一、三三五	一二七、四八三			
昭和二年	二	二六	四二、五七八	一五七、三六八			
昭和三年	二	二六	三五、四〇八	一五三、二四五			
昭和四年	二	二六	三二、六二七	一三五、四七六			

三 防疫事務

言語、風俗、舊慣ヲ異ニスル彼等ニ對シ首狩其ノ他ノ陋習ヲ打破セシメ生活向上ノ改善ヲ圖リ化シテ以テ母國人ト同様ノ社會的地位ヲ開拓セシメンカタメニハ日常矯正スヘキ事項等尠シトセス然ルニ思想未タ不堅實ニシテ雷同性ニ富ム彼等ハ何時如何ナル經學官動ヲ敢テスルヤモ難斗ニ付蕃地一般ノ注意警戒ニ努メツツアルモ蕃情極メテ平穩ナリ管内警備機關左ノ如シ

支 廳 別	駐 在 所	備 考
研 花 風 玉 計	三 七 一 〇 一 四 三 九 一	
海 邊 林 里		

夕 將來施設ヲ要スル事項

一 勸 業

(一) 農事試驗場

東部地方ハ西部地方ニ比シ農民中底級ナルモノ多ク農業ノ經營方法等モ亦粗放的ナルヲ免レヌ今後大ニ指導改善スル要アリ適々昭和四年ヨリ臺東街ニ設置セラレタル東部農産試驗場ハ其ノ事業計畫ヲ主トシテ可耕未墾地ノ開發ニ力ヲ致シ米其ノ他畑作ノ一般試驗ハ附隨施設ニ過キサルヲ以テ當廳ニ於テハ指導機關トシテ速ニ完備シタル農事試驗場ヲ設置シ各種ノ試驗試作ヲ行ヒ確實ナル成績ヲ發表シ當業者ノ指針タラシムルヲ要ス

(二) 東部適作物試作

廳下ハ地勢南北ニ延ヒ水平的ニ暖帶熱帶ニ跨リ垂直的ニハ山岳急峻ナルヲ以テ極メテ近距離ニ於テ寒帶ヨリ熱帶ニ亘ル各種ノ氣温ヲ利用シ得ヘキ特色ヲ有ス而シテ廳下ノ廣袤三百方里中八七%ハ山地、殘餘七%ハ平野、六%ハ河床ナリ依之觀是廳下ノ産業開發ハ平地ニ於ケル各種ノ施設ヲ完備シ益生産力ノ向上充實ヲ計ルニアリト雖又以テ平地ニ十數倍セル山地ノ開拓利用ニ手ヲ染ムルコト一日モ忽ニスヘカラサル事項ナリトス依テ平地ニ於ケル施設トシテハ廳下農産ノ大宗タル稻作ノ各種試作ヲ行ヒ更ニ目下試作中ニシテ成績良好ナリト稱セラルル薄荷及麥ノ試作ヲモ行ヒ基礎的研究ヲ遂ケ之ニ指導獎勵ヲ加フルト共ニ一面主要ナル山脚地ニ對シテハ鳳梨、珈琲、苧麻、蓖麻等ノ有用作物ヲ試作シ之カ普及ヲ期セントスルモノナリ

(三) 牧場設置

近年本島ニ於ケル牛畜ハ林野ノ開拓ニ伴ヒ放牧地域逐年減少シ牛畜ノ飼養蕃殖ハ漸次困難ノ度ヲ加ヘツツアル傾向アリト聞ク從テ今ヤ農耕上畜力ノ不足ハ勿論肉用牛ノ缺乏ヲ告クルニ至リ其ノ前途頗ル憂フヘキ現況ニアリ然ルニ廳下ハ幸ニ新開地ニシテ未タ農耕地以外ニ到ル處放牧適地ヲ有シ然カモ野草ハ四季ヲ通シテ繁茂シ牧牛業經營上天惠的地ノ利ヲ占ムル現況ナリ從テ牛畜ハ逐年増殖シ年々過剩牛一千三百餘頭ニ及ヒ年々管外ニ搬出スル牛畜ノ頭數二百頭内外ニ達スサレハ將來產牛改良増殖上廳下ニ點在スル牧場適地ニ對シ種牛牧場並部落共同生産牧場ヲ設置シ積極的ニ之カ改良増殖ヲ獎勵スルコトハ管ニ廳下產牛業ノ發達ニ止マラス島内牛畜不足地方ノ牛畜需給調節上ヨリ見ルモ極メテ重要ナル施設ナリ

二 土 木

(一) 河川整理

イ 花蓮港防水堤防工事

大正十四年ヨリ花蓮港、蘇澳間連絡船就航スルアリ臺東線又全通シ廳下各方面トモ長足ノ進展ヲ見ルニ至レリ就中花蓮港街ノ人口年々約一千人ヲ増加シ從テ家屋ノ建築亦夥シク増加シ現在ノ市街地ニテハ狹隘ヲ告クルヲ以テ大正九年築設ニ係ル北北西花蓮港街防水堤防ヲ現在ノ位置ヨリ約二百六十間同方面ノ個所即チ停車場豫定地外ニ移築シ以テ街勢ノ發展ヲ計リ尙砂婆砥溪氾濫ニ依ル被害ヲ併テ防護セントスルモノナリ

ロ 知亞干溪左岸(豊田)堤防工事

嘗往ニ於ケル降雨出水ノ度毎ニ耕地ヲ浸蝕流失シツツアリシガ殊ニ最近其ノ被害ノ度一増激甚ヲ極メ數十甲ノ沃野埋沒流失セリ之ヲ此ノ儘放任シ置カハ豊田村移民村ノ存立ハ遂ニ危殆ニ瀕スル狀況ニ在ルヲ以テ村民ノ焦慮一方ナラス故ニ移民政策上ヨリスルモ速ニ防護工事急施ノ必要ヲ認ムルモノナリ

ハ 紅葉溪石堤工事

花蓮港廳鳳林支廳管内紅葉溪ハ從來瑞穗温泉上流約十町附近ヨリ分流シ第一及第二紅葉溪鐵道橋梁ヲ通シテ秀姑巒溪ニ注キ居リシモ近年其ノ一部ハ左岸ヲ侵堀温泉道路ニ向ヒ附近土地ヲ荒シタリシカ昭和四年夏季ニ於ケル再度ノ豪雨ニ際シ漸次其ノ度ヲ増シ特ニ八月上旬ノ暴風雨ニ際シテハ氾濫ノ度烈シク温泉道路約十町ヲ缺潰埋沒シ且輕便軌條二百三十二本ヲ流シ更ニ大區域ノ耕地ヲ砂礫地ト化セシメ瑞穗驛構内ノ如キハ土砂ニ埋沒セラレ一時列車ノ運轉不能トナリタル狀況ナリ其ノ他驛前部落ノ如キハ一時危險ニ瀕シ家屋ノ流失ヲサヘ見ントシタル狀況ナリ瑞穗驛以西ノ大耕地ハ地勢紅葉溪ヨリ打馬燕ニ向テ底下セルヲ以テ此ノ儘放任セシカ遂ニハ其ノ耕地ノ大部分ヲ砂礫地ト化シ了ラントスル狀態ニ在ルヲ以テ此ノ際瑞穗温泉ヨリ上流約十町紅葉溪左岸ニ八十間ノ石堤ヲ設置シ流水ヲ全部鐵道第二紅葉溪橋梁ニ導キ以テ之カ被害ヲ防止セントスルモノナリ

ニ 秀姑巒溪玉里第二堤防工事

昭和三年五月以來數回ニ亘ル洪水ノ爲秀姑巒溪安通方面ノ右岸著シク潰流シ激流ハ玉里市街ノ背面ヲ洗滌シ末廣、三笠附近ノ良田ヲ崩潰流失シ此ノ儘ニ放任シ得サルノ状態トナレリ故ニ鐵橋下流二百間ノ石堤ヲ築造シ之等被害ノ増大ヲ防止セントスルモノナリ

(二) 道路港湾ノ施設

イ 花蓮港大港口道路測量調査

花蓮港ヨリ臺東既設海岸道路ニ至ル延長十八里ハ當廳唯一ノ海岸道路ニシテ水璉尾、加路蘭、新社、貓公、大港口ヲ經テ臺東廳道路ニ連結セントスルモノニシテ臺東海岸道路竣成シタル今日交通、軍事、産業上最モ重要ナルヲ以テ速ニ測量ノ上之ガ改修ヲ要スルモノナリ

ロ 港湾施設

東部臺灣開發ノ爲諸般ノ施設着々實現セラレ大正十四年以來定期船廻航ノ外ニ毎日花蓮港、蘇澳間ノ連絡船就航スルニ至レリ而シテ交通往來漸ク頻繁トナリタルモ港湾ノ施設ナキ爲貨客ノ乗降ニ多大ノ不便アリ若シ夫レ多少ノ風アラシカ忽チ交通杜絶ス故ニ大正十二年漁港、避難港施設方ヲ督府ニ稟請シ更ニ大正十四年當地商工會ヨリ築港速成ニ關シ請願スルトコロアリ現今一層痛切ニ之カ設備ノ急ヲ認メラル竝ニ具體的成案ヲ以テ豫算ヲ計上シ稟請スルヲ得サルモ國費ヲ以テ急施セラレンコトヲ希望スルモノナリ

(三) 其ノ他ノ土木工事

イ 花蓮港水道鐵管連絡敷設工事

現在引用申込者多數ニシテ尙續々住家建設サレツツアリ稻住通ノ一部福住通ノ一部北濱ノ一部ノ各方面ニ是非鐵管延長敷設ヲ爲ササルヘカラス

ロ 豊田村山下排水溝開鑿

豊田村山下ハ大正四年移民四十二戸ヲ收容シ建設セラレタル所ニシテ割當地ハ臺東線以西ニ位置シ原荖腦山山脚ニ至ル地ナリ故ニ豪雨ニ際シテハ附近急峻ナル溪谷ヨリ氾濫砂礫ヲ田畑ニ押入レ山脚ノ割當地ハ被害尠カラス尙原荖腦山ト部落ノ中間ニ一ツノ枯川アリ毎年七、八月ノ候ニ至レハ溪口方面ヨリ降下スル雨水ト溪谷ヨリ流下スル雨水ト共ニ氾濫シ附近ノ耕地ハ其ノ都度浸水崩壞シテ巾五十間ニ達スル所アリ之カ排水溝急施ノ要アルモ廣汎ナル地域ナルヲ以テ當村目下ノ經濟状態ヨリシテ村民自力ニヨル水制工事ハ到底覺束ナキ状態ニシテ若シ之レヲ此ノ儘放任センカ附近ノ割當地ハ荒原ト化スヘキヲ以テ之カ防止策トシテ完全ナル排水溝ヲ新設シ以テ村民ヲ安住セシムルノ要アルヲ認ムルモノナリ

ハ 豊田村森本排水路開鑿

豊田圳ノ取入口ヨリ分水點ニ至ル幹線ハ枯川ヲ利用シテ通水シ其ノ枯川ハ字森本、中里ノ中間ヲ過キテ鹽糖壽工場第三農場ニ至ル、大正六年豊田圳通水以來豪雨等ニ際シ埤圳各支線ノ埋沒崩壞ヲ防ク應急ノ策トシテ一時之ニ落水シタル爲灌漑水ニ含ム土砂ハ川尻ニ堆積シテ現在川床ハ割當地ヨリ高キ狀況ニシテ出水ノ度毎

ニ田畑ニ浸水シ農作物ノ被害甚シク既ニ參甲餘ノ耕地ヲ荒野ト化セシメ尙漸次被害面積ヲ擴大シツツアリ完全ナル排水路ヲ開鑿シ以テ之カ被害ノ防止ハ其ノ急ナルヲ認ムルモノナリ

二 豊田圳改修

豊田圳ハ大正六年三月竣工シタルモノニシテ幹線四千九百九間、支線一萬二千四十一間ニシテ現在灌漑面積田五十二甲、畑百五十甲ナリ然ルニ當村ニ於テ最モ灌漑水ノ必要ヲ痛感スル時季(三月ヨリ九月マテ)ニ至レハ降雨ノ爲知亞干溪氾濫シテ其ノ都度取入堰ヲ流失セラレ未タ完全ナル永久的取入堰ヲ設クル能ハス故ニ灌漑水ニ不足ヲ告ケツツアル現況ナリ埤圳開鑿當初ニ於テハ現在ノ知亞干溪鐵橋ヨリ約二百二十間上流ニ隧道ヲ掘鑿シ取入モ容易ニ灌漑用水モ不十分ナカラ引水ナシ得タルモ大正十三年鐵道部ニ於テ取入隧道ヲ基點ニ水制堤築造後ハ隧道附近理没シテ本流ハ河原ノ中央ニ出テ取入ニ非常ナル困難ヲ來シ降雨ノ爲導水路及取入堰堤ハ流失埋没セラレ其ノ度毎ニ村民ニ於テ多大ノ費用、勞力及日子ヲ費シテ導水路ヲ開鑿シツツアル狀況ナリ斯ノ如ク破壊流出ノ復舊工事ニ毎歲出役スル村民ノ苦痛ハ勞力沸底且經濟狀態順調ナラサル當村トシテハ眞ニ難事ナリト云フヘシ故ニ之カ改善策トシテ鐵道部制水堤防ヨリ上流ニ當リ知亞干溪左岸山麓ニ二百四十九間ノ隧道ヲ設ケ堅牢ナル取入口工事ヲ施シ以テ汎濫増水等ニ依ル現在ノ災禍ヨリ免カレシムルノ要アルヲ認ム

水 林田村排水工事

林田村中野、北林間ノ排水路ハ大正六年林田村移民指導所設置當時堀鑿セラレタルモノニシテ年々七、八月頃ノ豪雨ニ際シ土砂ニ埋没セラレ其ノ都度浚深シツツ來リシカ數年前ヨリ洪水ノ都度鳳林山及無名溪ヨリ溪谷ニ集中スル水量多ク排水路ハ各所ヲ崩壞セラレ氾濫シタル濁水ハ割當地ニ浸入シ最近ニ於ケル耕地ノ被害甚大ナル狀況ニ在リ至急改修ノ上其ノ災害防止ノ要ヲ認ム

三 營 繕

イ 菁菜醫院移轉改築

大正二年ノ新營ニ屬シ屋根ハ亞鉛葺天井無シノ仮設建築ニシテ既ニ十七箇年ヲ經過シ蟻害及自然腐朽甚シク夏季暴風雨等ニ際シ危險ノ状態ニアルノミナラス不便ノ點尠カラス爲ニ入院患者ノ不平ノ聲絶ヘサルナリ尙且現建物敷地ハ市區改正計畫道路ニ當リ中央兩斷セラルル等ノ支障アリ速ニ移轉改築スルコトハ強制入院セシムル本院ノ事業趣旨ヨリ見ルモ其ノ急施ヲ認ムルトコロナリ

ロ 廳庶務課官舎新營

定員ニ對シ官舎著シク不足セルヲ以テ之カ逐次新營ノ要アリ

ハ 平野區役場新營

大正四年八月ノ建設ニシテ木造平家建ナルト年數經過久シキ爲各所腐朽及蟻害甚タシク且内部狹隘ニシテ簿冊ノ格納其ノ他事務執行上支障多シ速ニ新營ヲ要ス

二 織羅屠場新營

玉里支廳下織羅派出所部内ハ海岸山脈地帯ニ在リテ戸數二百餘戸、人口千五百餘人ニシテ現在隣接觀音山屠場ヲ使用セシメ居ルモ二里ノ距離アリ不便不尠ニ付同地ノ屠場新營ノ要アリ

水 平林屠場新營

鳳林支廳下平林派出所部内ハ戸數三百數十戸、人口千餘人アリ現在鳳林屠場ヲ使用セシメ居ルモ二里二十八町餘ノ距離アリ不便不尠ニ付平林驛附近ニ之カ新營ノ要アリ

ハ 花蓮港屠場移轉改築

花蓮港屠場ハ大正二年十月ノ建築ニシテ既ニ十七箇年ヲ經過シ其ノ材料ノ多クハ腐蝕改築ノ時期ニ迫リ加之設置當時ト異リ爾來市街ノ人口激增シ市區計劃擴張ノ結果現在屠場ノ位置ハ市街ノ中央要衝地トナリ衛生上風致上遺憾ノ點不尠ニ付街ノ東南端ニ移轉改築ノ要アリ

四 衛生

(一) マラリア病撲滅策

十箇年繼續廳下全管内ニ防遏法施行スルコト現在ノ經費配賦豫算二萬百十圓ノ約倍額四萬五千圓トシ十箇年間ニ要スル經費四十五萬圓トス

(二) マラリア防遏地物整理

昭和五年度豫算要求額三萬七千圓埋立、排水施設費、此ノ外施設工事トシテハ濕潤地住宅ノ移轉ヲ要スル箇所アリ即チ里漏、薄々、林田村ノ各一部及豊田村山下等ナリ

(三) 醫療機關ノ普及

鳳林支廳下鳳林區太巴塢、新社區大港口、花蓮支廳下壽區壽村、研海支廳下研海區北埔ニ公醫各一名配置ヲ要ス

(四) 飲料水ノ改善

イ 簡易水道布設補助ヲ要スルモノ

大庄區公埔簡易水道

ロ 公共井戸ノ普及

溪水、滯溢水等飲用スル部落ニ對シ公共井戸設置普及ヲ要ス

(五) 衛生試驗室ノ新營

當廳ニハ未タ衛生品試驗室設備ナク現在假設倉庫ノ一部ヲ以テ之ニ充テ居ルモ採光通風ヲ缺キ遺憾ノ點不尠ニ付新營ノ要アリ

(六) 細菌試驗室ノ新營

現在細菌試驗室ノ設備ナク目下菁萊醫院ノ一部ヲ以テ之ニ充テ居ルモ狹隘不便ニシテ敏活ナル活動ニ支障ア

リ新營ノ要アリ

(七) 傳染病隔離施設

玉里庄玉里ニ傳染病隔離病棟建設ヲ要ス

(八) 婦人病院新營

廳所在地花蓮港街ニ於ケル娼妓檢診治療所ハ貸座敷組合ヨリ借家シ之ニ充テ居ルモ設備不完全ニ付新營ノ要アリ

右報告例ニ依リ報告ス

昭和五年十月三十一日

花蓮港廳長 猪股松之助

臺灣總督 石塚英藏 殿

昭和五年十二月二十日印刷
昭和五年十二月二十五日發行

花 蓮 港 廳

花蓮港廳花蓮港街花蓮港黑金通三六番戶

印刷人 木 村 欽 吾

花蓮港廳花蓮港街花蓮港黑金通三六番戶

印刷所 木 村 活 版 所

白馬河 本林通

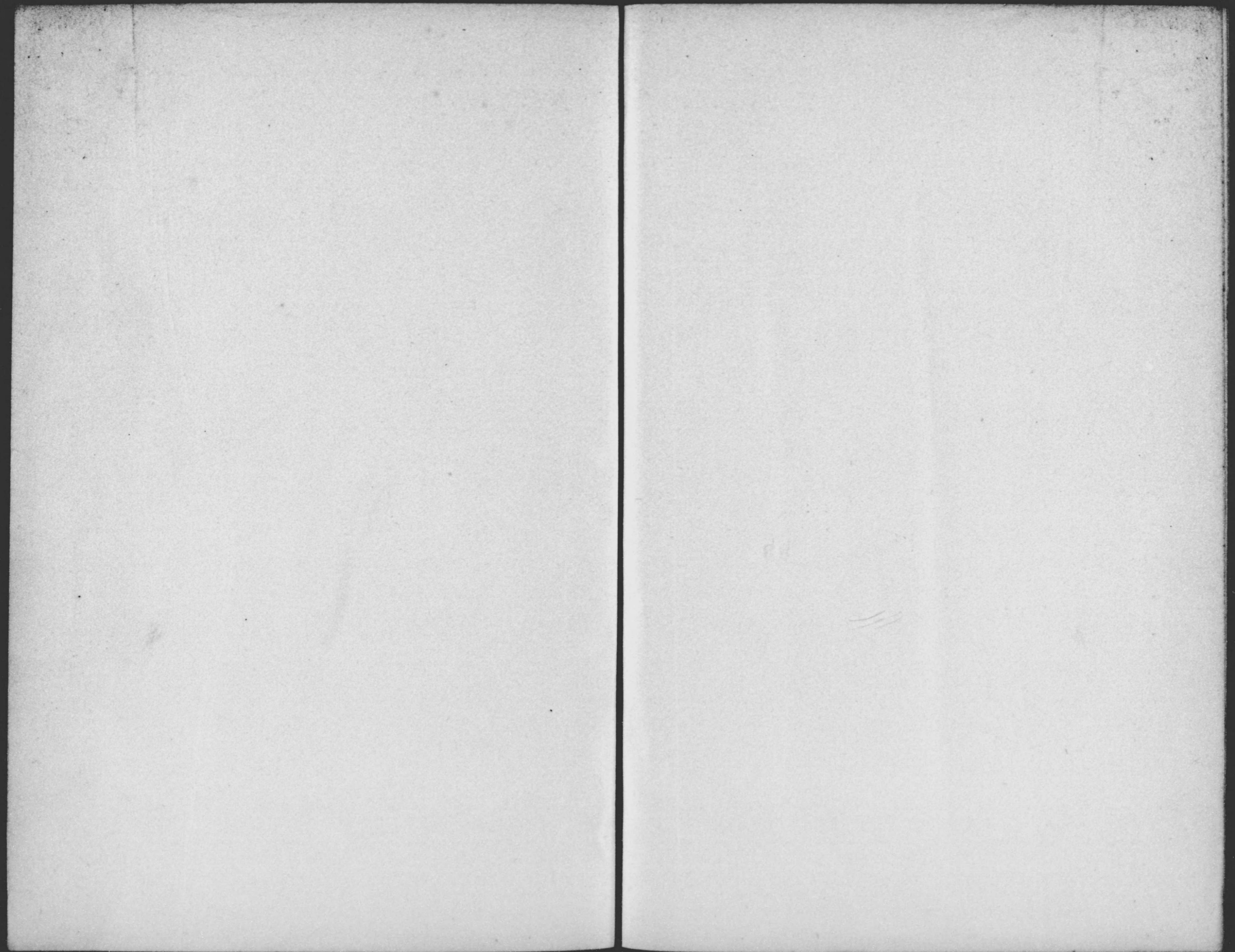
...

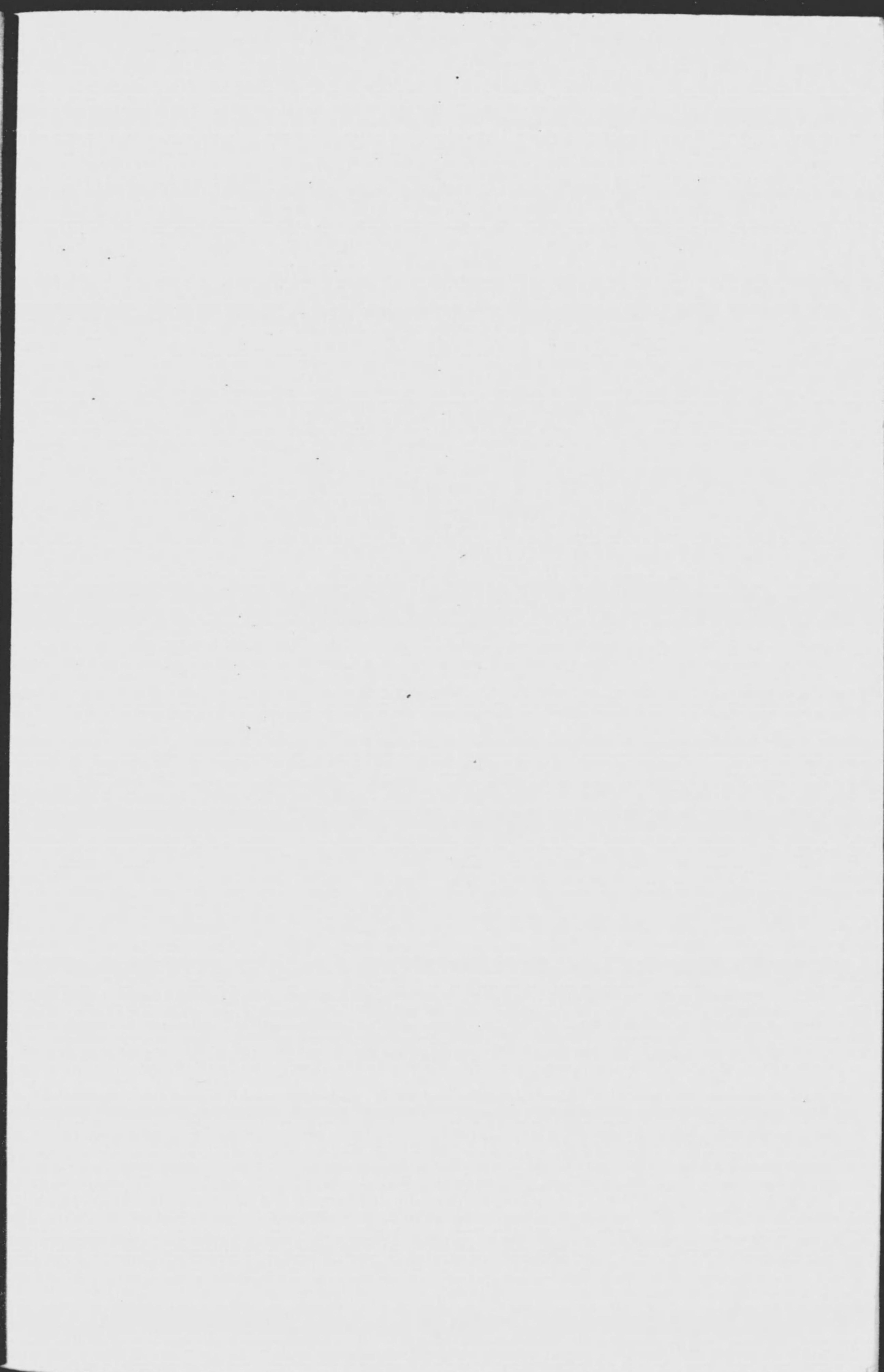
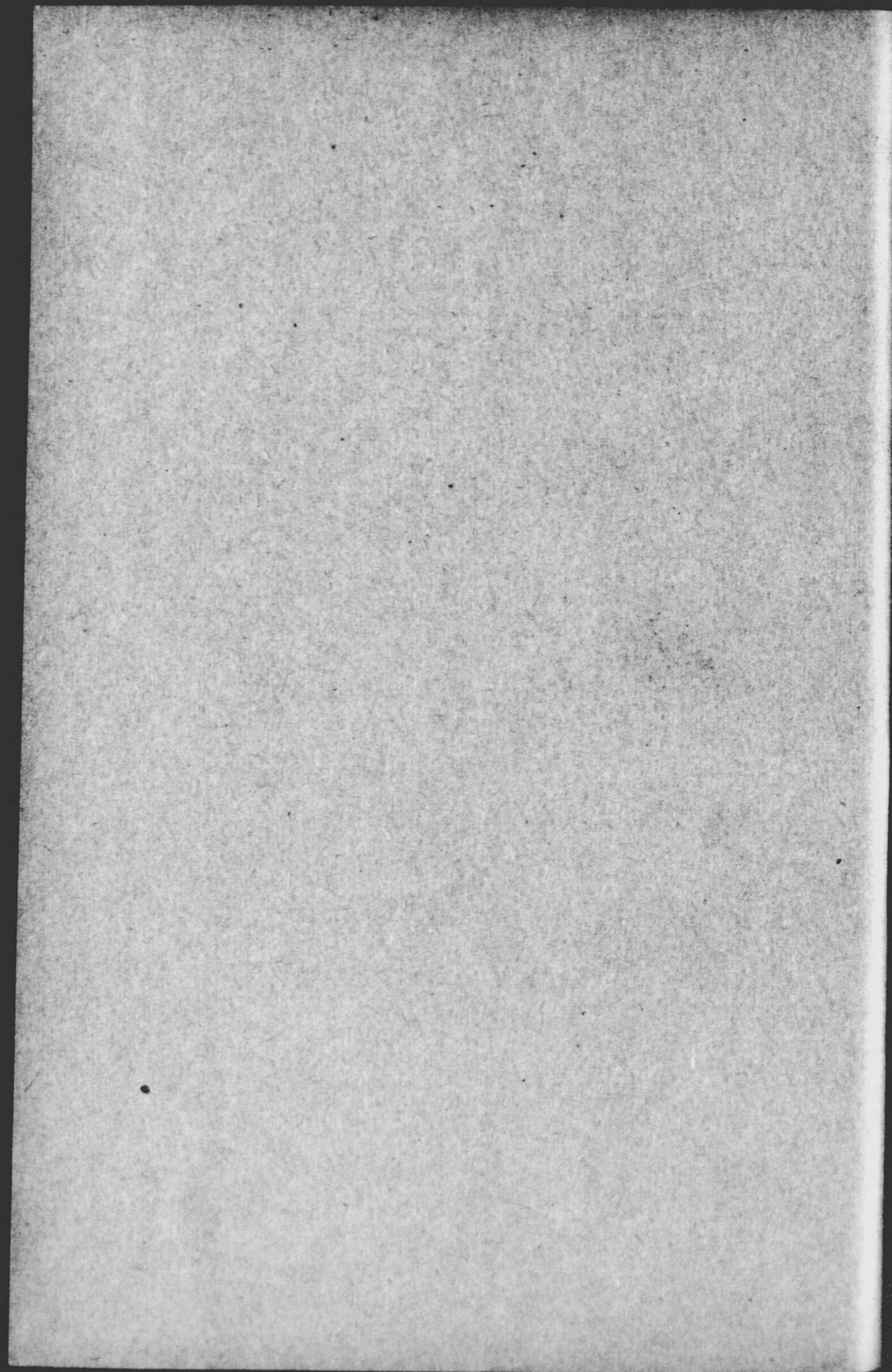
...

...

...

...





579
227

142



142

